

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400898		
法人名	社会福祉法人 恵神会		
事業所名	グループホーム神庭荘		
所在地	岡山県真庭市組573番地		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成29年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、家庭的な雰囲気を大切にし一人一人生き生きとした姿で、毎日安心して生活できる様支援させていただいています。目配り、気配り心配りに心がけ、笑顔で過ごせる毎日を努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム神庭荘は、総合福祉施設の傘下であり、同敷地内には特別養護老人ホームがあります。認知症になっても地域の一員として人格を尊重されながら、一人ひとりの残存能力が活かされた日常生活が送られています。家族も気軽に施設を訪ねている様子が窺えます。また、職員はレベルアップに努め、社内外の研修を受けながら自己研鑽に励んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「惻隱の情」を介護の基本理念とし一人一人に合った心のこもったサービスの提供、人格尊重、プライバシーの保持、利用者の安心、安全な生活の保証に務める。	「惻隱の情」とは相手の立場に立って物事を感じ取る感性と理解し、理念を書いた紙を名札の裏に携帯している職員もあります。また、理事長の地域と施設が身近な存在であって欲しいという考えのもと、地域密着型サービスの意義を踏まえ、職員と共に実践に繋げている様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の民話慰問。年2回の地域の婦人部との交流があり楽しまれている。	地域の婦人部の方々が草取りや季節の花の苗を植え、組部落の有志はイノシシ除けの柵を設置してくれるなど施設が地域資源として期待されている様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に気兼ねなく自由に入出入り出来る、GHIになるように務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催している。地域の方、家族、行政との情報共有を図っている。	市職員、地域・家族代表、法人の傘下にある他事業所も参加の上、活動報告・健康状態の報告などを行っています。また、他の参加者からの情報や意見をサービス向上に活かせるよう心掛けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	4か月に1回、グループホーム連絡協議会に参加、市担当者への相談などし情報交換をしている。	グループホーム協議会には11のグループホームが集いそれぞれの事案をあげ、事例検討をするなど市町村との連携を密に取り、協力関係を築きながら取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束において現在はいないが危険性がありやむおえない場合は家族に相談する。法人全体で身体拘束委員会が主となりケアに取り組んでいる。	職員の中で声掛けのきつい時などあれば、その場で職員間で注意しあい、常に入居者・入居者家族がどこで見ているも不足がないように、また自分のしたことの真意が答えられる言葉がけ、介助することによって身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や会議・ミーティングにて話し合う機会を持ち職員同志で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの申し出や必要に応じ職員間で話し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には料金表など書面に基づいて説明、理解を得、署名捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の手紙にて状況報告し面会時には、より深い報告をするようにしている。	請求書を送付する際、入居者の状況を書いた手紙を一人ひとりの家族に送っています。近隣の方は気軽に面会に来るので、その時のコミュニケーションを大切にし意見・要望が出やすいように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議や必要に応じてのミーティング等で介護だけにとらわれず職員の意見要望を話しやすい環境作りをし業務に反映させている。	主任はワーカー会議やミーティングなどで職員が発言できるよう心掛けています。功を奏しているのか職員からは活発に意見がでて、職場環境や入居者の支援に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	楽しくやりがいのある職場作りにつとめ、年2回の人事考課を活用し向上心を持つよう務めている。又、リフレッシュ休暇の導入もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市各機関からの研修を業務に支障ない範囲で参加してもらう。研修後の復命伝達で研修内容の共有化を図る荘内研修へも参加し資質向上に務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市グループホーム連絡会議等を活用し行政と一体となった情報交換や研修会等に参加する事で資質向上や情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学や事前面接にて現在の不安や要望に耳を傾け状況の把握につとめる。職員は本人との信頼しあえる関係づくりにつとめる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談時にグループホームの見学をすすめ面接時には利用者の経緯、家族の負担や苦勞にしっかり耳を傾け信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズに基づき状況を把握し居宅等の利用も含めた対応につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとらわれず一人の尊敬する人格としての関係につとめ教わる事も相談しあう事もできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり利用者の状況を常に共有しあい支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人に気兼ねなく面会に来てもらえる環境づくりにつとめドライブ支援や受診などの際に近所や家に寄るなどしている。	職員の住まいが入居者の近所であったり、通院時に車で馴染みの場所を通ったり又、病院自体が馴染みの場であったりと日々の生活の中で馴染みの関係が途切れないように支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の気持ちを大切に気の合う者同士楽しく過ごせるように職員が調整し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所後も入院先や施設などできる限りの情報提供と相談にのり対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の利用者や家族のニーズを把握し意向にそうようにつとめている。その人らしい暮らしを大切にしている。	入居者の思いや意向の把握は難しいこともあり共同生活の中で入居者一人ひとりのしたい事を優先し、その時の表情や反応を見ながら職員意見を集約して本人本位に検討し、その人らしい暮らしの支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーを通じ生活歴を知り、今までの生活でグループホームでもできる事は継続して行い個人の理解を深めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心身状態を気にかけてできる事をして頂きやりがいを持ってもらうようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のワーカー会議で必ず利用者ケアの話し合いを持ち常に変化に対応し、本人、家族との話し合いを通し作成している。	遠方でなかなか面会が難しい場合には、電話で家族の意向を確認し、必要に応じて(疾患がある場合など)医師・看護師に相談しながら現状に即した介護計画を作成するよう心掛けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気づきやケア結果は個別の記録に記入し変更する時などは伝達ノートにて確認しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズを一番に考え法人母体すべての協力をしあいその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の地域交流を開催しなじみの人とのふれあいを持つ事で楽しく過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療選択の自由を優先しかかりつけ医の継続を基本として往診・受診の支援を行い適切に医療を受けている。	かかりつけ医の継続、定期的な往診(1回/3週間)、医療機関との連携により適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時には、ただちに主治医の病院への連携をとり指示を仰ぐ。又、法人の看護師にも相談連絡し支援体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、グループホームでの様子を記入した情報提供を行い、入院期間は、ソーシャルワーカー、病棟看護師等連絡を取り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所での重度化、看取指針については、本人、家族の希望や意向をふまえ、説明同意をいただいている。ただ、法人内の特養への移行、希望が多く、事業所内での実施例はない。	法人内の福祉施設と医療機関との連携を踏まえ終末期のあり方について本人・家族・職員など関係者で話し合い、不安のないように状況変化に応じた対応に努めている様子が窺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や応急手当等の対応のマニュアルを作成している。荘内研修(AED蘇生法等)で実施力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度、当事業所単独の避難訓練と法人全体の避難訓練を実施している。	災害対策は火災が中心になっています。土砂くずれについては、市役所に状況を説明すれば、災害時の指示系統で消防署・警察などが連携して行動するよう約束されています。	これからも昼夜を通して様々な災害の発生を想定し、土砂災害については消防署・警察などの連携の在り方を確認して、地域住民と協力体制を築いていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に合った言葉かけを心掛けている。排泄や入浴などは特に配慮しケアしている。	一人ひとりの入居者に、馴れ合いから本人の出来る事にまで手を出しそうになる事もあり、人格を損ねない様心掛けています。	これからも入居者一人ひとりの個性を尊重し、馴れ合いになりすぎない様注意し、それぞれの自立度にあわせ、支援していかれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に何がしたいのかどうしたいのか等声掛けすることにより自分で決定できる場面を持ちそれに基づいてケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の立場になりその都度寄り添い要望を聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで使い慣れた道具や化粧品を持ち込んで頂き継続して本人なりの身だしなみやおしゃれをされている。本人の馴染みの理美容院に来所して頂き髪を整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや切ったりなど出来る事をしてもらい共に食事に楽しみを持ってもらうよう支援している。	食事前には嚥下体操をして摂食による誤嚥のリスクを予防し、入居者一人ひとりの嚥下能力に応じた形態・時間で食事を楽しんでいる様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士と連携をとり栄養バランスや食事形態、水分量に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っている。時々、舌のケアも行い本人に合わせた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合ったトイレの声掛け、排泄のリズムを大切に自立支援につとめている。	入居者一人ひとり排泄の自立度が違うので、個性を尊重しプライバシーの尊厳を守り自立支援に取り組みながら、夜間も必要に応じて随時排泄介助に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時には、カスピ海ヨーグルトや十分な水分補給につとめている。又、海藻類や繊維質の多い食材の提供をし、散歩や運動も取り入れ予防につとめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合った入浴支援につとめている。安全、安心な入浴。心身共にリフレッシュでき、時間にこだわらず職員とコミュニケーションをとり楽しみを持ってもらっている。	入浴拒否の理由を把握(洗髪を嫌がる人・着脱を嫌がる人など)し、体調や様子をみながら入浴を楽しみとなるよう支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度に気を配り支援している。昼食後は居室やホールのソファでくつろげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容をスタッフ全員で把握できるようファイリングし新たな薬の追加や頓服など伝達ノートにて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や居室のそうじ、ゴミ出しなど役割を持ってもらい生活に生きがいや喜びをもってもらおうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員で季節の折には、ドライブに出かけ外出支援を行っている他、担当者が買い物・食事に出かけることもある。又、ご家族にも協力して頂いている。	県北の寒い地域なので、冬場は日常的な外出や買い物など困難な日もありますが、通院介助の折などのドライブや四季折々の行事による外出支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持等は、入所前に家族や本人と話し合い決めている。保管管理については、事業所でお金を管理している。出納帳へ記入し面会日時を通して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙は、確実に渡している。家族や知人からの電話も気兼ねなくかけてもらっておりとても喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆がくつろぐホールからは花や野菜を見ることが出来、ホールの壁画は職員が行事の飾りつけをしたりし心地良い空間作りをしている。	入居者が集う居間は高いところに明かり取りがあり又、大きな窓から見える季節の移ろいを感じながら、手作りのカレンダーや壁飾りなどで暖かい和やかな場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つの場所のみに落ちつかず畳やソファなど思い思いに過ごせる居場所がある。ソファは、沢山座れるのでくつろぎのスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのタンスや使いなれた愛用品を持ち込まれ安心した空間を提供している。家族とも相談し合い空間作りをしている。	居室にはタンスや洗面台が備え付けになっており、トイレのある部屋もあります。入居者一人ひとりが安全に安心して過ごせるよう工夫している様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、わかる事を見極め、その力を発揮しやりがい、生きがいのある自分らしい生活が送れるように工夫している。		